

レンガ造りの「神田下水」
今もその一部が使われている

始まりは感染症？

日本では江戸時代から明治時代にかけて、各地でコレラなどの感染症が蔓延しました。そこで、明治17年に日本で初めての近代下水道「神田下水」の建設が始まりました。このように古くから、われわれの衛生的な生活は、下水道によって守られているのです。

9月10日は
下水道の日

止められないから、 止まらない仕事があるんです。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のための対策が重要となっております。WHO（世界保健機関）などによると、下水道職員についても、その業務環境に応じて平素から保護具の着用・手指の消毒などの安全管理を行うことが重要とされています。また、「感染者の糞便から感染するリスクは低いとみられる」及び「下水処理の有無にかかわらず下水道を介して感染したという知見はない」とされており、下水から新型コロナウイルスに感染するリスクは低いと考えられます。



“見えないところ”から 支える

下水道は、「雨から街を守る」「汚水を処理して街を清潔に保つ」「海・河川の水質を保全する」ことを主な目的として、事業が実施されています。



使えなくなってからでは 遅いから

下水道は24時間365日、止めることができない生活の基盤です。そんな下水道を守る職員はエッセンシャルワーカー（必要不可欠な労働者）として私たちの暮らしを支えています。